



灯笼

— TOHRO —

The Japanese Traditional

灯籠

— TOHRO —

時を超えて伝承される
日本文化の美と技を、
世界にお届けいたします。

Made in
JAPAN





それは聖域、 そして風雅。

古くは奈良時代、1300年ほど昔から日本庭園や神社仏閣で親しまれてきた石灯籠。

神社での灯籠は、単なる照明ではなく、神の御加護をより一層強く願うためのもの、魔よけの意味もありました。

安土桃山時代以降、茶の湯が発達して日本庭園に“風流”が求められてくるようになると、様々な洗練されたデザインが増え、今日の日本の石工文化の礎が築かれました。

その場所で
石を育てる
喜び。

ひとりの職人がひとつの灯籠を
じっくりと時間をかけて
手加工でつくり上げる、
こだわりの逸品。

職人がノミ切りで仕上げる石肌は、
柔らかく温かみがあり、
時を経るごとに年々味わいを
増していきます。

その場所だけの季節の移ろいをまとい、
石色の変化や染みや苔さえも愛おしむ気持ちは、
日本特有の美の感性です。



手間を惜しまず
彫る「豊かさ」。

丁寧な石との対話が生む匠の技術 揺るぎないメイド・イン・ジャパン

石灯籠は、石工品のなかでも高い技術力が必要とされる石工品です。

職人たちは、技術を絶え間なく積み重ねるため、注文品がなくても在庫展示品をつくり続けています。そうして石を見る目を養い、知識・技術や伝統を伝え、高い品質を維持してきました。

「見る人の心が豊かなものになるように」と心を込めた手づくりの灯籠には、細やかで丁寧な仕事と、温かみが溢れています。





徳川家康が生誕した岡崎城



徳川家康像



岡崎市内の石採掘場

日本石のブランド産地。

石工の日本三大産地、岡崎から
創業 190 余年の老舗石屋がお届けいたします。

岡崎の石工品は茨城、香川と並んで石の日本三大産地のひとつと称されています。

なかでも灯籠、多重塔、水鉢等は伝統的技法・技術が今日に受け継がれており、経済産業省の伝統的工芸品に指定されています。

その歴史の長さは 400 年。岡崎城築城の際、優秀な石工（いしく）を河内・和泉の国から移住させたのがはじまりといわれています。

岡崎では良質な花崗岩が豊富にあったこと、徳川家康由来の神社仏閣にこの地の灯籠を上納したことなどから、岡崎の石工業が発展してきました。

その岡崎の中でも、一番の老舗が手掛ける灯籠を選びすぐり、お届けいたします。

天下の名将軍「徳川家康」の出身地でもある
岡崎の石は、家康公にちなんで「出世石」と呼ばれ、珍重されてきました。

徳川家康
January 31, 1543 - June 1, 1616



日本国産品と海外製造品の違い

日本国産品



手加工

一人の職人が一基の灯籠を責任を持ってつくります。細部まで時間をかけてじっくり造るため、量産できません。

※一部ノミ仕上げ以外の商品もございます。



1 玉の先端

柔らかい線で先端を表現します。



2 笠

なめらかで優しい曲線のラインと丸みを帯びた角が特徴です。



3 火袋

底面に燭台というロウソクを置く場所を造ります。(一部製品を除く)



4 合わせ面の接合部

ノミの凹凸がある中でも安定するように手加工で調整してつくられます。



5 コブ

地面に活け込む製品の場合、重心を下にもたせコブ部分に土圧がかかることにより、灯籠を安定させ倒れにくくする効果があります。



海外製造品



機械加工

効率よく造るため、商品によってはパーツごとに製作者を替えて手間をはぶき、量産されるため安価に入手が可能です。

1 玉の先端

機械を使用して尖らせるように加工しています。



2 笠

曲線に機械の跡が残り、角も尖った加工です。



3 火袋

機械で加工した跡が残ります。



4 合わせ面の接合部

広い隙間ができ、鉛などを挟んで調整する必要がある場合もあります。



5 コブ

ありません。地中にしっかりと埋めてください。



商品ラインナップ

・商品写真は一例です。別紙商品一覧表をご参照ください。
 ・商品はすべて一点ものです。

灯籠 とうろう

塔 とう

水鉢・蹲 みずばち・つくばい

【立灯籠】

【活込灯籠】

【置灯籠】

【雪見灯籠】



柚ノ木



松琴亭



岬



古代雪見



春日



六角活込



八角置



角雪見



古代善導寺



八角活込



大宝



琴柱



来迎院型三層塔



五重の塔



十三層塔



四角水鉢



本鞍馬つくばい



銭鉢



六角立水鉢



つぼみ鉢



丸乱杭鉢



四方仏



袈裟鉢

※弥勒菩薩・薬師如来・釈迦如来・阿弥陀如来

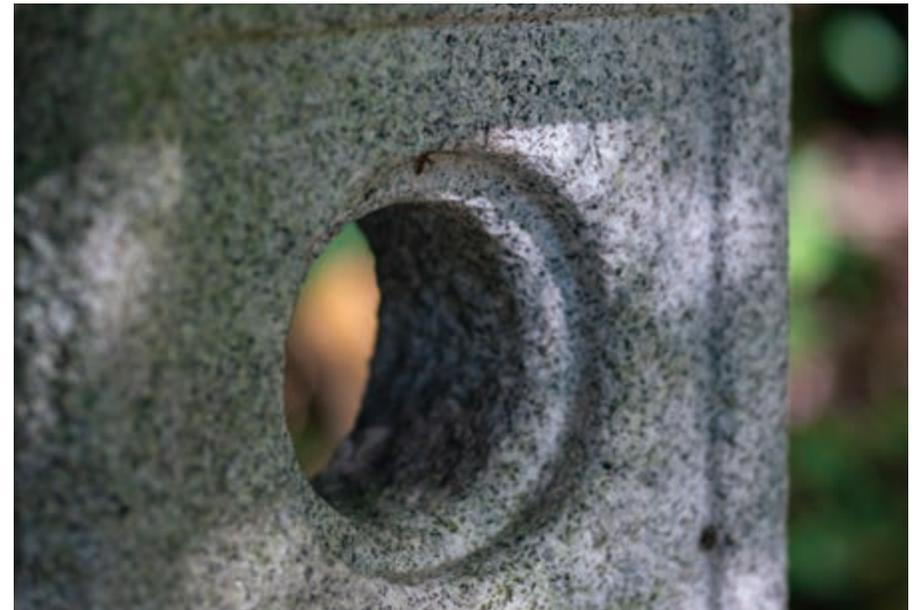
Case : 01

立灯籠

愛知県岡崎市／石の野外ミュージアム恩賜苑

森の中に佇む立灯籠。

木漏れ日が時々照らす石肌には、
湿気を含んだ空気の中でうっすらと苔が付き始め、
ほのかに青みがかかった石灯籠は
森の緑に溶け込むようでした。



※商品はすべて1点ものです。

Case : 02

置灯籠

愛知県碧南市／無我苑

池のほとりにあしらわれた小さな置き灯籠。

丸みのある輪郭が愛らしく、

小振りながらも目を惹きます。

小川のせせらぎや水辺の植物、落ち葉や石ころにさえも
さり気なく寄り添い、風景に物語を感じさせます。



※商品はすべて1点ものです。

Case : 03

立灯籠

愛知県岡崎市／岡崎城公園

たっぷりとした肉感と、抑揚のある形の立灯籠。
茶道にちなんだ道具たちが立体的にあしらわれています。
猪目（いのめ）と呼ばれるハート型の文様は、
魔除けの意味合いがあり、社寺建築などにも用いられます。



※商品はすべて1点ものです。

Case : 04

水鉢

愛知県碧南市／無我苑

ふくよかな丸みが美しい、つぼみ鉢。

優しい曲線と有機的な質感は、ノミ仕上げの手仕事だからこそ。

経年変化で黒く色が滲み出し、重厚感の増した石肌は、

まるで墨絵のようです。



※商品はすべて1点ものです。

Case : 05

立灯籠・つくばい

愛知県岡崎市／重の家

日本料理店の入り口で、お客様をお迎えする設えです。
店名を彫り込んだ立灯籠と、天然石のつくばい。
限られたスペースの中にも、「和のおもてなしの心」と、
密度の高い美意識を感じられます。



※商品はすべて1点ものです。

Case : 06

立灯籠

愛知県岡崎市／岡崎城公園

鹿の彫り込みが施された立灯籠はよくありますが、これはウグイスの透かし彫りも入った珍しい逸品です。その他にも、七宝つなぎ（四方に連続して広がることから、永遠を表すおめでたい意味）など縁起の良いモチーフも。



※商品はすべて1点ものです。

Case : 07

活込灯籠

愛知県碧南市／無我苑

風化したような素朴な表情の活込灯籠です。
江戸時代に京都の桂離宮に設置された
「水螢」という灯籠を模して造られています。
灯が池の水に映えてゆらめくと、
螢が飛んでいるかに見えることから命名されました。



※商品はすべて1点ものです。



JAPAN
QUALITY

別注のオーダーも承ります

ご希望のデザインで製作いたします。

サイズやイメージ、縦・横・奥行のサイズ、参考写真等をお知らせいただけましたらお見積りさせていただきます。

デザインによっては石で制作できない場合もあり、彫刻の細かさによっても価格が異なります。

まずはどうぞお気軽にご相談ください。

多くの商品は、一点物になります。

ご希望をうかがった後、カタログ掲載以外の商品の写真をお送りする事もできます。

また、販売済の場合はご容赦くださいますようお願い申し上げます。

ESPERAND

株式会社エスペランド

〒101-0052

東京都千代田区神田小川町 2-8-21 下田ビル

TEL : 03-5577-7630

FAX : 03-5577-7631

e-mail : info@espe-rand.co.jp

<http://www.espe-rand.co.jp>